

学びと感動を共有しよう

2018
1/12～14

仙台での学び 深く熱く！

全国障害児学級・学校学習交流集会 参加報告集



兵庫からは16名参加しました。各分会からお寄せいただいたカンパを、青年層の先生方の旅費等補助に活用させていただき、助かりました。ありがとうございました。お礼にかえて報告します。今回参加できなかった方も雰囲気を知っていただいて、2020年1月11～13日の兵庫・神戸大会準備を進めていきましょう！

* 仙台大会の概要 *

- 1日目(1月12日) 全体会、現地企画、記念講演、全国交流会
- 2日目(1月13日) てんこもり講座、旬の実践分科会、文化バザール
- 3日目(1月14日) 教育フォーラム

初めての参加でしたが、本当に充実し非常に刺激を受けた3日間でした。参加して感じたことは、会のサブタイトル「集う、学ぶ、つながるはチカラ」の言葉通りでした。人が集まれば、いろいろな考え方や思いにふれられ、視野が広がり、そこには必ず新たな学びが生まれます。そして、それが明日からの自分自身の実践のチカラ（原動力）となるのだと実感できました。

今回、私は一度しっかりと性教育について学びたいと思い、てんこ盛り講座「子どもも親も先生もHOT（ほっと）する目からウロコの性教育～すてきな大人になるために～」に参加しました。子どもものとする行動に対して、180度違った考え方に気付かせていただき、自分の中で腑に落ちました。本当に目からウロコで、もっと聞きたいと思いました。旬の実践分科会「自閉症・自閉的傾向の子どもたちの授業づくり・教育課程づくり（小）」では、ありのままの子どもを受け入れ、寄り添い、丁寧に関わっていくという当たり前のようだけれども、難しく非常に根気のいる取り組みの中で、変わっていく子どもたちの姿に感動しました。子ども、教師間での安心感、共感、信頼、絆が子どもたちの成長を後押ししていることに改めて気づき、自分自身を振り返るよい機会にもなりました。

来年度は兵庫県開催です。どんな講座、実践が聞けるのか今から楽しみです。ぜひ、みなさん一緒に参加しましょう。参加して得られるものは限りなくあると思います。 (1先生)



1日目、現地企画で仙台の魅力の紹介や合唱などがあり楽しいスタートでした。記念講演では、タイムタニック号の事故のエピソードや具体的な事件などから話が進みをもとに、濃い内容の講演でよき学習となりました。また夜の全体交流会は、全国各地から大勢の方が参加され、活気あふれる会でした。

2日目は、午前中『青年期のキャリア教育を考える』の会に参加、東京都の福祉作業所の状況を聞き、子どもが将来的に仕事を選べるように様々な経験をさせることがいかに必要であることを改めて感じました。また、作業所などでは利用者にあった仕事内容を探す苦労があることを知り、課題もあるのかなと感じました。

午後は、『発達の遅れと授業づくり・教育課程づくり・言葉の獲得期教科入門』の会に参加しました。生活単元『むかし遊び』の授業研究発表がありました。校外学習や学校祭にも生活単元の内容を取り入れ、年間を通して授業や行事を計画的に行っていたので参考になりました。また、秋の校外学習では、テーマをもとに6年間を見通して行き先を学年をこえて話し合っていて計画していることに驚きました。また、各学校の授業や学校生活の様子をもとに児童とどう接しているかなど参考になることが多く新鮮でした。今後の教育活動に役立たせていきたいと思います。
(M先生)

華やかな金管五重奏、賑やかなコーラスのオープニングアクトで高まる期待の中開会した全体会。基調報告、記念報告と普段バタバタと仕事に追われる毎日の中でふともう一度初心に帰って基本を見つめ直すことができ、とても勉強になりました。しかし自分が一番深く頷きながら聴くことができたのは、二日目、「てんこ盛り講座」や「旬の実践報告」と銘打たれた、他校で実際に勤めておられる現職の先生方の報告でした。現場だからこそ生まれる悩みや戸惑いがあるのままだに語られ、自分も毎日直面している悩みや戸惑いが、自分ひとりの悩みではなかったという安心感や驚き、そしてそれに対して試行錯誤しながら接しておられる先生方の生き生きとした姿が語られ、本当に勇気づけられました。「一人じゃない」という思いが共有できて、勇気づけられる、これぞ組合の醍醐味であると改めて感じましたし、それを勉強会の形でも実感できたことはとても有意義でした。

仙台で食べたおいしい牛タン、お土産に買って帰った萩の月、ずんだ餅と共に良い思い出になりました。

(O先生)



自然の味 ずんだ餅



日中はしっかり勉強



名物牛タン 煮込みも最高



初日の JD(日本障害者協会)会長の藤井克徳さんの講演「障害のある人が人間らしく生きるには」は、終始戦慄を覚えながら聞き入りました。中でもナチスの「T4作戦(障害者大虐殺)」の詳細は、衝撃的でした。そして優生保護法の問題、「やまゆり園」事件、監禁事件など、今もなお残っている現実。「障害者権利条約は、『北極星』(向かうべき指標)だ」ということばが印象的でした。権利条約を社会の隅々にいきわたらせること、憲法を守ることの大切さを改めて心に刻みました。

2日目は、ずっと関心のあった性教育を一日学習しました。神奈川の間賀田清子さんの「子どもも親も先生もHOT(ほっと)する。目からウロコの性教育」すごくたくさん手作り教材。なかでも人形のかわいらしく、そして精巧なこと!「人はみな、心と体の主人公」「自分を大切にこそ、ひとも大切にできる」すてきな言葉ですね。『性器いじり』ではなく『性器タッチ』。成長ととらえることや、目くじら立てずに性をポジティブに考えることが大切だと、目からウロコでした。

午後は、性教育バッシングが盛んな東京都の小学校特支での「キラキラたいむ」の素敵な授業実践。討議では「管理職が…学年が…」と戸惑いも出されましたが、「実践しないことを誰かのせいにしていないか」と厳しい問いかけもあり、自分が当事者として取り組むべき、性教育を受けないまま成人していく多くの児童生徒への危惧など、率直に話し合えました。

昨年卒業生の就労先の病院を訪問した時、上司の看護師さんに彼女が私を「性教育の先生」と紹介してくれたことを思い出して、「子どものニーズの海へ少しは飛び込めたのかな」と励みになりました。

(内心、本当は国語も教えたのになあ)

(N先生)

この集会は18回目を迎え、全国から数百名の仲間が参加するなか、私も楽しく学んできました。

会場は熱気があふれ、障害児教育に向き合う人の真剣な思いにいつもながら心が動かされました。

今回、記念講演をされた藤井克徳さん(日本障害者協議会代表)のお話が、特に心に刻まれました。「障害者権利条約」が定められ、障害者の「人権」が守られることはゆるぎないことだ、と私は信じているのですが、全ての人と同じ思いではないとのこと。障害者は、常に排除しようとする力とのたたかいの中におかれ、これまでの運動で少しずつ「権利」を獲得してきたのだ、と話されました。また、自然災害も障害者にはよりひどく影響し、東日本大震災での死亡率は健常者の2倍と聞いたときは「生きる」という一番根源的な人権すら守られない現実に改めて愕然としました。障害があってもゆたかな人生を送れるよう、私たちの教育の分野のみならず福祉や社会の世相そのものに働きかけ、真にゆたかな社会をつくらねば、と思った講演でした。

その後の全体交流会ではおいしい料理と楽しい企画と。仙台名物の「ずんだもち」も彩りを添えてましたよ。交流会の最後に、来年の開催地として「兵庫」を発表。「兵庫といえば?」とポートタワーや異人館など名物を全国に紹介。引き続き参加をお願いしてきました。

あ〜、これから準備しないと(汗)・・・

(S先生)



私的には約 20 年ぶり 2 度目の仙台です。飛行機で約 1 時間半、兵庫の皆さんと美味しい牛たんランチを食べてから会場に入りました。全体会、文化行事の後の福島農民連からの特別報告では、原発事故の除染作業で出た汚染土を広域の公共事業で使おうとしていることや農業にかかわる人たちの苦悩、自然エネルギーへの転換等、福島や東北だけの問題でないことを実感しました。

実践分科会では視覚障害児の教育実践に出ました。和歌山盲学校のレポートは、乳幼児期からの保護者支援の実践報告です。眼科治療後、母親は自分を責め、子供の将来を悲観しての盲学校入学ですが、早期教育によって生活の中の子どもの育ちを伝えることで母性の立ち上げや家族にとっての障害受容を支援し、親たちは我が子の見え方や育ちに向き合えるようになっていきました。幼稚部の学級認定で学年別・単一重複別を認めさせ、年度途中でも 3 歳になった時点から幼稚部入学を可能にしている和歌山盲。参加者からの「息の長い情報発信と運動」という言葉に元気と勇気をもらって帰路につきました。

(T 先生)

宮城大会の速報でご挨拶

宮城の皆様、大会成功に向けて本当にご苦労様でした。そしてありがとうございました。

さて、来年は兵庫で開催することになりました。東日本大震災で大きな傷を負った仙台から、それから遡ること 16 年前に起こった阪神淡路大震災で壊滅的な被害を受けた神戸の地にバトンが渡されることには、感慨深いものがあります。当時もたくさんのボランティアの方が来て下さり、助けていただきました。そのお礼の気持ちも込めて、全国からたくさんの仲間を迎えよう、子どもたちの発達保障にかける思いや教師としてのパワーを高め合える集会を創ろうと、現在準備を進めているところです。会場は神戸の三宮や当時火の海となった長田の街を中心にと計画しています。長田駅前



には、デッカイ「鉄人 28 号」が力強く天に拳を突き上げています。集会の頃はちょうど震災関連の行事や展示なども各所で開かれる時期ですので、集会の合間にお立ち寄りください。また、北野の異人館の風情や、六甲山からの港神戸の夜景など、お楽しみいただけるスポットもいっぱいです。交通の便も大変よく、全国各地からアクセスしやすいところです。

そして、兵庫は神戸ビーフや明石ダコなどの美味しいものもいっぱいです。

2020年1月11～13日、心からお待ちしています。



震災遺稿を訪ねて

仙台での開催と聞いて、学びの機会と同時に3.11「東日本大震災」の現場に是非行ってみたいと思い、参加しました。仙台駅の観光協会を尋ねると「荒浜小学校が震災遺構としてある」とのこと。

三日目の朝、仙台駅から地下鉄とバスを乗り継ぎ、荒浜小学校にいきました。バスが学校に近づき、ある地点から建物が全くなくなっていて、残っているのは小学校と墓地のみでした。児童や教職員、地域住民ら320人が避難し、海から近い校舎の2階まで津波が押し寄せたとのこと。津波は周囲の松林、民家、住民の暮らしをすべてを奪ってしまいました。被災した校舎の姿と被災直後の写真展示等見学させていただいて、当時の津波が押しよせる様子、当時の校長先生、教頭先生、自治会長さんのお話をビデオで見させていただいて、この地域を襲った津波の脅威の一端を知ることができました。

何にもまして「いのちが大事」、子どもたち、私たちのいのちを守るために、防災・減災の意識を高めることの重要性を痛感しました。



(I先生)

(アースを目指しているN先生も参加され、感想を聞かせていただきました。以下、概要です。)

被災地を回るフィールドワークに参加しました。現地の先生から当時の被災地の様子と現状など、内容の濃い話しを聞くことができました。特に印象に残ったのは、障害がある子の避難生活は深刻で、健常児の比ではないということ。しかもそういうことは報道にはなかなか出てこないため、知られることもなく問題化もされない。しかし実際は、せっかく避難しても他の避難者に迷惑を掛けるから。という理由で元の壊れた家に戻り、不自由な生活を強いられる実態や、障害者の死亡率は健常者の2倍にもなる。等…ということでした。そう遠くない将来、また災害が起こるであろうことを考えると、今からしっかりした取り組みをしなければ。と思いました。

皆さん、感想文集へのご協力ありがとうございました

